

冠山会だより

歴史と伝統の 先に立つ



冠山会会長
奥田 秀紀

並びに母校のさらなる発展に一層のご協力ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

未来への歴史と伝統

郡山高校は、平成五年に百周年を迎え、この慶節を記念して同窓会館「冠山会館」が建築されました。

創立百三十数年が経ち、「誠実・剛毅・雄大」の校訓のもと、永い伝統の中で培われた文武両道の精神を心に刻み、社会に有為な人材を数多く送り出してまいりました。母校を巣立っていった先輩諸氏は、様々な分野で多大な社会貢献をされ、その同窓会組織である「冠山会」は、城内高校麒麟会との統合を経て、現在、会員数三万二千人を有する県内最大規模の同窓会組織へと発展してまいりました。

会員の皆様が壮健でおられることは何よりも悦ばしく、冠山会会員であることの矜持をもって、将来・未来へと目を向け歩み続けていきたいと願うところであります。

苦難な状況にこそ穏やかに

十代の人生の最も多感な時期、皆が自身の夢の実現に最大の情熱を注ぎ、切磋琢磨しながら自由闊達に過ごした日々。

先生方や先輩後輩、仲間と共に過ごしたかけがえのない思い出の数々は、郡高卒業後、幾年が過ぎてもそれぞれの心に息づいています。

卒業生の皆さんが歩む道のりは、決して見晴らしの良い一本道とは限りません。むしろ、先の全く見えないたく

第46号

発行所
奈良県立郡山高等学校
冠山会
題字
中村 象谷
編集責任者
冠山会事務局
発行部数 32,000部

さんの曲がり角が待っているやに知れません。しかし、曲がり角を曲がったら、どんな景色があるのだろうかとか、どんな人との出会いや出来事が待っているのだろうかとか新たな出会いや新しい出来事への期待と心の高鳴りをもって進んでほしいと思います。たとえ苦難な状況に遭ったとしても、決して郡高魂を忘れることなく、笑顔を絶やさず、穏やかに進んでいただければと願っています。

母校支援を高らかに続行

冠山会活動の目的である学びの環境を支援することに沿い、昨年度初めてとなる学校長との情報交換の機会を設けました。そこでは、生徒が毎日過ごす環境について、十分に行き届かない面があることや、なかなか学校だけでは実現しにくい現状があることに、大変もどかしい思いでおられる苦しい胸の内を伺いました。

生徒が学びやすく、快適な環境で学校生活を謳歌してくれることは、私たち卒業生の強い願いであり望みであります。

今年度冠山会が実施しました学びの環境への支援の数々が、生徒たちの笑顔に変わり、少し心が潤って、自身の夢の実現に繋がっていただければ嬉しい限りであります。

また、校訓を活かした教育を紡ぐ郡高教育は、今日、社会が求める人材像とも重なり合い、人を育てるクオリティの高い実践をさせていただいていることに改めて感謝申し上げますとともに、大変心強く思うところであります。

活動方針は「ツートップ」へ

高校の再編統合により、城内高校と郡山高校は、卒業後の同窓会「冠山会」として新たな一つの流れになりました。それぞれの思いが融合し何倍もの力となりました。

これまで冠山会は、同窓会の情報発信の手段として、年に一度、全会員約三万二千人に「冠山会だより」を発行しています。

情報伝達の手段や方法が、時代の進展と共に多様化し、幅広い在りようが求められる今、昨年度新たに立ち上げました「冠山会ホームページ」は、最新の情報を配信することや毎年異動する情報の更新、各行事への参加申込みなどの集約が可能となり、会員相互の情報共有のツールとなりました。

また、卒業生の心の拠り所である「冠山会館」は築年数が経ち、内部の修理や会館周辺の環境整備も必要となってきました。そこで、今年度新たに「冠山会館の大規模改修」事業を冠山会の活動方針の「ツートップ」に位置付け、いつまでも光り輝く会館を維持できるよう取り組んでまいりたいと思います。

協力の種が花を咲かせる

追いつけ追いつけ越セキヤッチアップの心気で、我が国は驚異的な経済成長を遂げ、一人一人が豊かさを謳歌する一方、混沌とする状況の中で、何かしら満たされぬ思いが募る日々を送っている側面もあります。

個人に求められる姿は多様ではあります。信頼される人間力の豊かさ、価値観の異なる相手や組織を相互に認め合い、よく理解し合って協力をしていることとする姿勢は、母校教育の根幹であります。郡高教育が築いてきたものは、我々の心を支える強さとなり、このことを礎に、大胆に新たな価値を創り出すとする改革の精神に変える大切さに気付かされたように思います。

冠山会会員皆さんの協力の輪は、必ずしも母校、冠山会の発展に花を咲かせるものになると信ずるところであります。

歴史は薫る桜花

母校が放つ伝統校としての重厚さ、お城と桜花が放つ限らない魅力。

冠山会活動は、卒業生の皆様お一人お一人の母校を思っていたく愛校心により成り立っています。

冠山会役員一同は、会員の皆様方からのご理解と手厚いご支援を受け、今後も重い責任と使命感をもって、運営に精一杯尽力してまいります。

冠山会会員の皆様におかれましては、冠山会の活動に、より一層のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、会員各位のご健勝並びに冠山会のさらなる発展、母校の輝かしい躍進を祈念し、ご挨拶いたします。

令和9年度の冠山会総会は ホテル日航奈良で開催します

令和9年度の冠山会総会は ホテル日航奈良で開催します

令和9年度は昭和53年卒業の皆様と共に次の日程で開催する予定です。

なお、冠山会会員の皆様の総会及び懇親会のご参加につきましては、冠山会ホームページ(各種行事の参加申込み)により、令和9年3月31日までに申込みください。(懇親会費七千円は当日にお持ちください。)*なお、昭和53年卒の皆様には別途参加案内を郵送でお送りしますのでホームページからの申込みは不要です。

令和9年5月9日(日曜日)

午前9時30分 歓迎の呈茶
10時00分 受付
11時00分 総会行事
12時10分 懇親会

一年間を振り返って



校長 村井 博樹

平素より冠山会の皆様方には、本校の教育活動にご支援をいただき、心から感謝申し上げます。

令和八年三月一日、梅の香かぐわしき佳き日、令和七年度卒業証書授与式が挙行され、三百七十二名の卒業生が冠山会員となりました。彼らの未来を応援いただくとともに、様々な場面で出会われたときには、是非ともお力添えをお願いいたします。一年間の思いを卒業式の式辞としましたので、掲載いたします。

(略) 令和七年四月、四十二年の時を経て、母校に勤務するという身に余る榮譽を授かり、自分は素晴らしい後輩である皆さんと出会いました。この一年間、皆さんの姿を遠くから見守って参りましたが、皆さんが抱えている心の機微は、四十二年前、自分たちが感じたものと何ら変わらぬ、普遍的なものであると確信しています。

体育大会で見せた弾けるような笑顔。球技大会に向け、昼休みや早朝から練習に励み、その日を楽しもうとするひたむきな姿。そして、かつてと変わらぬ熱気で盛り

上がった文化祭。後夜祭の花火が夜空を彩った後、互いの健闘を称え合い、祭りの終わりを惜しんで肩を組み、円陣を組んでいた皆さんの姿を見たとき、自分は不意に時間を遡り、かつての自分たちの姿を重ねていました。真剣に受験勉強に励む姿には「美しさ」を感じ、厳しい日々の中にも友達と笑い合う姿には「強さ」を感じました。

時代は「昭和」から「令和」へと移ろいましたが、多感な時期に郡高で過ごす日々の尊さは、決して変わることはありません。

ただ、昭和の高校生であつた自分は、郡高での経験がその後の人生においていかに糧となり、人生の様々な場面で一步を踏み出す勇氣を与えてくれたか、すでにその「答え合わせ」を終えています。皆さんがこの三年間で積み重ねた、歓喜、躍動、時には葛藤、そして先生方からの教えや友との語らい。この環境の中で過ごした日常。そのすべてが、これからの皆さんの人生を切り拓く、力強いエネルギーになると自分は信じて疑いません。

現代、社会を取り巻く環境は先が見にくく、目標となるロールモデルを定めにくい

時代です。自ら判断し、自ら行動するほかありません。当然、そこには失敗も伴うでしょう。しかし、失敗を恐れる必要はありません。そのときは立ち止まり引き返せば良いのです。大切なのは、失敗から学び、再び踏み出す勇氣です。自分自身の正義に従い一步を踏み出す、チャレンジ精神。その源泉こそが、郡高での経験であると信じています。

皆さんを見ていて気づいたことがあります。それは「郡高生は総合力が傑出している」ということです。特定の分野に突出していること以上に、人間としての誠実さ、勤勉さ、温かさ、そして他者や社会と調和する力。この「総合力」こそが、これからの複雑な社会を生き抜く上で最も肝要な力であり、皆さんは三年間、その力を十分に培ってきました。どうか、自分への誇りと自信を持ち、胸を張って新しい世界へ踏み出してください。(略)

「郡高魂」は今も受け継がれています。

松 籟

いつもよりも寒さが控えめな冬を過ぎた後、一気に暖かくなり桜が咲き始める時期に、今年も郡山高校正門前でお城まつりが行われました。そして毎年のことですが、お城まつりが終わる頃は、桜が散り始める頃にもなり、本校の新年度が始まる時期にもなります。新入生や新2・3年生が少し戸惑いながら通学をし始めます。まだまだ自分の「役割」に慣れていないからだと思います。とはいえ、始業式・入学式・対面式と行事が続いていく中で、すべての生徒が、徐々に自分の新しい「役割」や「やるべき事」に慣れていくてくれます。

そのような光景を、今年は「郡高」とは違う学校から見守るつもりで文章をつづっています。

この文章を書いている時期には、「郡高」生として3年間、「郡高」教諭として1年間、「郡高」教頭として1年間、通算して5年間は「郡高」で過ごし終わる時期です。様々な役割を担当したおかげで、より一層濃密な「郡高」生活を過ごせたと自負しています。もちろん、生徒として過ごした3年間は一番印象に残っている時代ではありますが、役割が変わったそれぞれの時間にも、それぞれの思い出が残っています。

教諭としては、(いま現在)最後の担任を担当しました。当初、久しぶりの担任に多少の不安はありましたが、問題なく担任の役割をこなせたと思っています。

教頭としては、先生方にご協力をお願いしつつ、冠山会各種行事への

R8年度冠山会総会

幹事長 日高 容子

違ってました。今までの総会・懇親会とは、全く違ってました。

時は、いつもと同じ、母の日、R8年5月10日(日)、所もいつもと同じ、JR奈良駅前の日航奈良ホテルで行われた冠山会の総会です。

午前9時すぎには、4階の懇親会場の前にずらりと並び、卒50周年に当たるS52年卒の方々の受付が早くもスタンバイされていました。それもそのはず、なんと今年は141名もの同級生が出席の返事をくれていたからです。

そのこととまるで呼応するが如く、私たち冠山会の方も申し込みが多かったのです。本部役員や幹事の方々はもちろんのこと、一般会員の方々の参加が多かったのです。昨年まではごく内輪の総会の様子を呈していたのですが、今年は違っていました。

なんとS29年卒、御年90才の先輩方が、お二人も揃って来て頂けたのです。

「みんなに声かけたんですけどね・・・」
「校歌をどうしても歌いたかったから！」とホームページに申し込んで下さったのです。

それにつられるように、S42年卒の方々が、赤いリボンを胸に多数ご参加下さいました。そこに、冠山会だよりを見て来たとおっしゃる、とび入り参加の方もおられたのです。もちろん、来年の総会企画の担当の学年、S53年卒の方々もしっかりと見学も下見も兼ねて来られたことは言うまでもありません。

11時、しいんと静まり返った会場に、まずは先に往かれた同窓生に黙祷をささげます。そして、松本副会長の開会の辞が声高らかに響き渡ります。

奥田会長、村井校長の挨拶の後、議長を会長が勤められ、次々と議案も承認され、肅々と総会は進みます。212と銘打って、学校支援・生徒支援の案が大きな拍手で認められ、気持ちも高ぶる中、校歌を三

卒業50年学年同窓会を行いました！

令和8年5月10日、ホテル日航奈良にて冠山会総会の後、郡山高校卒業50年学年同窓会を行いました。141名の昭和52年卒業の同窓生が集いました。

開会前から、久しぶりの出合いを喜び合う様子があちこちで見受けられました。また、受付も手伝ってくれる同窓生が多く、スムーズに事が運びました。

学年同窓会を行うことができたのは、冠山会会長・幹事長はじめ役員・幹事の方々、郡山高校校長、事務長先生、先生方、また、ホテル日航奈良さまの援助のおかげと深く感謝しております。

また、この会には、昭和29年卒業の先輩をはじめ、城内学舎卒業の方々、また、我々の先輩、後輩の方々のご臨席をいただきました。

会は、はじめに冠山会で亡くなられた方々への黙祷。冠山会会長と卒業50年学

生まで歌い、胸が熱くなるのを感じながら、総勢200人の懇親会へと移ってまいりました。



奈良新聞 令和8年5月22日掲載

卒業50年学年同窓会を行いました！

年同窓生代表幹事と郡山高校校長のあいさつ、冠山会副会長の乾杯の発声で始められ、名司会のもと順調に進められました。テーブル毎に談笑、みんな旧交を温め合いました。そして、記念撮影。

圧巻は、私たちの後輩のお二人によるフルートとピアノの生演奏とスクリーンには、卒業アルバムの写真。続いて、卒業50年学年同窓生の応援団副団長と平成5年卒業の応援団員(パフォーマー)の方による郡高音頭。最後は、参加者全員でフルートとピアノの伴奏での校歌斉唱。皆さまの力でとてもいい会になったと思います。ありがとうございました。

同窓会後、あるクラスではクラスライオンが開設され「これからつながりが深まるね」「68歳から青春やね」という言葉が投稿されました。

(昭和52年卒業生 幹事 井上靖章)

参加を通じて、冠山会の発展に少しは寄与できたかなあという思いです。それぞれの期間が短く、多くの貢献はできなかったことは残念ではありますが、違う役割で過ごしたことで、自分の中でより一層「郡高」が大きな存在になったと感じています。

ところで、お城まつり期間中は、まつりを楽しまつ、周辺住民の皆さまと親交を深めることのできる時期でもあります。今年は郡山が舞台の大河ドラマが放送されていることもあり、奈良県の郡山という地域に注目が集まっています。もちろん「郡山高校」つまり「郡高」にも興味の目が注がれているはずですよ。

「郡高」が「郡高」であるためには、もちろん「郡高」生の役割をしっかりとこなすことが大切ですが、周囲の方々にも「郡高」を認めてもらう、「郡高」に親しんでもらう必要があります。そのためには、郡高生、育友会員、冠山会員が一丸となって「郡高のために」を考えて行動する必要性を感じています。今年度は、結果は残念ではありましたが、甲子園に行く可能性もいただきました。その際の郡高生、育友会員、冠山会員の勢いは、まさに一丸となって「郡高生のために」行動していただけた機会であったと思います。

『郡高』
いついつまでも私の母校。もちろん『冠山会』の一員としても、その「役割」を果たせるよう、微力ではありますが、これからも力を発揮していくつもりです。

これからもよろしく願います。

郡山高校 元教頭 池永 克好

卒業50年 卒業式に参加して

28期生(昭和51年卒)

杉阪喜永子

森井 裕子

近鉄郡山駅から橿原線と平行して道を歩き、左手に病院、校門前に警察署がありました。今は駐車場となつていところを通り過ぎたところにある門は昔のままで、少し進むと小運動場の入り口付近に施設できる門が見え、坂を上ると冠山会館が現れました。

1Fの食堂は昔と同じ位置にあります、2Fは会議室と冠山会室と洗面所。小運動場の階段は昔のままで、今回も昔同様、式後に写真を撮りました。

応援団が練習していたさまが甦り、小運動場は半分になり、北側に私たちの頃にはなかった講堂が建っています。

卒業式はその講堂で行われますが、私たちは冠山会館で参加受付を行いました。

2年生の後輩たちが職員の方々(先生方も卒業生)とともに対応してくださり、3月1日は偶然、日曜日になりましたが、休みの日に出てきてくれた後輩たちに声をかけました。

「何部?」「野球部です」「この間残念だったね」「私たちは



2年生の時に甲子園に行けたから幸せでした。

席に着くと昆布茶と紅白饅頭が、古き良き日本のしきたりです。

式は10時開始でしたが、それまでに着席と説明を受け、お手洗いを済ませようと下駄箱近くの洗面所へ。

県内の高校が洋式トイレに改修されていると聞いていましたが、本日から使えるとのこと。まさなら個室に長く並ぶこともなく、手洗いに手を出すとお湯が出てくる。「温水だ」と思わず皆で顔を合わせ時代を感じました。

10時前に講堂の席に着き、しばらくすると3年生が入場してきました。セレモニーは自分や子供たちで何度も経験していますが、校長先生の式辞は、後輩である生徒への温かい気持ちで詰まっています。心地よく響きました。

答辞では、合格した喜びから文武両道の精神のもと、1年生の時の文化祭ではがむしゃらに準備したこと、行事では悩むこともあったが、3年生になり仲間と力を合わせ支え合つて強い絆ができ、責任と信頼を学ぶことができたこと述べておられました。

50年前の私たちもそうであつたと感じ無量でした。

式では久しぶりに、国歌・蛍の光・校歌を斉唱しました。木造の南館の窓から風が吹くと桜吹雪にうつとりして授業の話が耳に入つてこなかったあの頃、教室も校舎も校庭もみな大好きと思ひながら卒業して、この50年、郡山高校に母校愛を持ち続けられることに誇りを感じています。

ご招待くださいました郡山高校の皆様、ありがとうございました。

お知らせ!

昭和52年3月卒業生の皆さんへ

昭和52年卒業の方は、卒業50周年に当たります。

来年の卒業式(令和9年3月1日)に招待されます。

昭和53年3月 卒業生の 皆さんへ

昭和53年卒

田村 好美

来年5月9日ホテル日航奈良にて開催される冠山会総会の後に昭和53年卒業の学年同窓会を開催いたします。

時が経過するのは早いもので卒業して50年の年月が経とうとしています。久しぶりに顔を合わせると高校時代に戻って話が盛り上がるかもしれません。話題はつきないと思います。

詳しい内容は後日お知らせいたします。ご多忙とは存じますが、皆さんお誘い合わせの上、ご出席いただければ幸いです。



昭和33年卒業 学年同窓会

昭和33年卒 藤本 寿男

開催日 令和7年10月19日(日)
場所 江戸三

あちこちから金木犀の香が心地よい10月19日、昭和33年卒業の同窓会を歴史ある料理旅館「江戸三」で開催致しました。

今回は卒業から今日まで長きにわたり幹事長として世話役を引き受けてくれた内藤眞君が今年の6月20日に突然亡



くなり、彼を偲ぶ会でもあります。

丸矢通生君の司会で黙禱を捧げ、高島一弘君の献杯の後、美味しいお酒と料理を戴き乍ら、皆様方から内藤眞君との心を打つ思い出話を聞かせて頂き、彼は人との出会いを大切に明るく性格で皆様に好かれていたのだと思いを強く致しました。ご冥福をお祈り申し上げます。

本日ご出席の一人お一人は皆様お元気ですが、今後90歳から100歳に向かつての人生設計は如何に！筑波大学名誉教授(故)村上和雄氏の研究によれば、98%は眠っている遺伝子を目覚めさせる方法【①明るい笑顔と散歩で体力を鍛え ②腹八分目で日本食を主にし ③人との出会いを大切に ④感謝の気持ちを忘れずに ⑤前向きに生きること】を会得実行して益々充実した幸せな人生を楽しもうという事で決着する。

あつという間の2時間半が経過し松田俊文君の中締めで開きとなりました。来年の同窓会はNHK大河ドラマ「豊臣兄弟！」にあやかっ

豊臣秀長公の菩提寺「春岳院」にお参りし、大和郡山市内で開催し親交を温める事に決まりました。

最後になりましたが荒木紀子様が冠山会から戴いて下さった、学年同窓会への開催支援金5万円はありがたく頂戴し、今後皆様と末永く親睦を図って行きたいと思えます。お礼として昭和33年卒業の同窓会より冠山会に2万円を寄付させて頂きます。有り難う御座いました。

昭和45年卒業 学年同窓会 開催模様

昭和45年卒 吉田 修一

盛夏から一足飛びに初冬を思わせる鈍色の11月5日(水)、高校卒業後55年の節目に学年同窓会をホテル日航奈良で開催しました。

卒業後半世紀を経過すると当該年の卒業式に高校から招待され、あわせて学年同窓会が開かれており、私たちは2020年がその年に当たっていたのですが、周知のとおりこの年の然も3月はコロナ

禍により社会全体が動きを止めたかのような時期でした。この流れに沿って卒業式への招待は取りやめとなり、必然的にあとは実施を待つのみ段階まで準備した学年同窓会も残念ながら中止となりました。

クラスを越えての同窓会を何とか開催したいとの強い思いを持つ池田彰君が旗振り役となり、総勢4人の世話役が母校・冠山会・会場との打ち合わせや調整を図るとともに、当日の役割を分担し沢山の出席の返事待つことになりました。343名の同窓生に案内を送付し、果たして何名の参加を見込めるか率直なところいくばくかの心配をしていたのですが、いざふたを開けてみると97名の参加となりました。しかも返信ハガキにはこの同窓会の開催を心待ちにしていたとの記載がいくつも見られ、世話役としてはまずは胸を撫でおろしたところでした。

定刻の12時に開会。物故者への黙祷のあと、発起人池田彰君の開会のあいさつに続き同じく世話役の吉岡雅子さん

の乾杯の発声により、2時間半の学年同窓会が始まりました。限られた時間内で参加者全員の近況を報告してもらおうと、クラス単位でステージに上がり手短に自己紹介をしてもらいました。また、各テーブルでは昔話に花が咲いたり、近況を報告しあっている中で早速ゴルフを一緒にと話がまとまるグループもみられました。一方で、出欠の返



事が来なかったり転居先が不明の同窓生の中には既に亡くなられていた方々がおられるという、残念な情報にも接することとなりました。

おおむね想定通りの時間が経過し、いよいよ校歌斉唱にこぎつけました。司会者がマイクを持って各テーブルを回り、少しずつでも皆さんの声を拾いたかったのですが、限られた時間のため1番しか歌えず、一部の人にしかマイクを向けられなかったのは心残りでした。

学年同窓会もいよいよ終盤。世話役の峠ひとみさんの中締めにより、名残惜しいお開きを迎えました。次回は3年後、それまでの間皆さん健康にはくれぐれも留意され、元気な姿で又お目にかかりましょう。

昭和48年卒 3年1組同窓会

昭和48年卒 白川 武示

昨年2025年(令和7年)11月30日(日)、昭和48年卒3年1組の同窓会を、奈良市

小西町の「櫃屋」で開催しました。この学年は一昨年の令和6年に学年全体の古稀同窓会をホテル日航奈良で1000名が集まり盛大に行いました。それは楽しい同窓会でしたが、やはりクラスでしみじみ集まりたいということで、今回の開催となりました。クラスとしては7年ぶりの開催で、19名が集まり、会った瞬間からおしゃべり全開の楽しく賑やかな同窓会となりました。ただ前回出席された嶋田一郎先生が逝去されて恩師のいない会となりました。先生はほぼすべてのクラス会に来ていただき、卒業後の我々に対して、いつも温かい言葉をかけていただいていた。さみしい限りです。

会は特別な趣向を凝らすことなく、食事をしながらそれぞれの近況報告をしたあと、歓談となりました。昔は古稀といえたいへんな老人でしたが、今の古稀はまだ元気いっぱいです。ほとんどの者が第一線を退いています。それぞれ第二の人生を謳歌しています。公的機関で二度目の勤めをする者、

地域のボランティア活動に励む者、先祖伝来の田を耕し米作りに励む者など、多くがまだ働いています。注文を受けて洋服を仕立てたり、書道を教えたりと隠れた技を生かして活躍している者もいます。大病を克服したあと趣味を追求して人生を楽しんでいる者、ママ友と素人劇団を作って幼稚園・小学校などで公演している者など、その活躍の場は多彩で、ここにすべてを紹介は出来ません。そんなこんなで話は尽きず、2時間があつという間に過ぎました。次回の幹事を決め、記念写真を撮って一次会は終了しました。そのあと、大半の者が近くの喫茶店に



繰り出して2次会をやり、さらに6〜7人で3次会に行きました。

青春時代を同じ学び舎で過ごした者同士の思い出は、深く心の中に残っていて、久しぶりに会えば堰を切ったようにあふれ出し、お互いを半世紀前の時代に連れて行ってくれます。同窓会とはいいいものです。これから老いを重ねていくなかで、数年ごとに集まり、在学中の思い出や卒業後の人生を語り合い、お互いの無事を確認し合い、次の再会を約束して、それを励みに元気に過ごしていきたいものです。そんなことをしみじみ思った、3年1組の同窓会でした。

昭和59年卒業 『1984会』 祝！還暦同窓会開催

昭和59年卒 吉田裕美子

令和8年5月3日(日)、ホテル日航奈良におきまして、昭和59年卒業の学年同窓会を開催いたしました。早いもので、前回の《卒業30年記念同窓

会(2013年1月)》から、13年が経ち、私たちは還暦を迎える年となりました。

『今回は、還暦のときに…』という約束どおり、この記念すべき節目の年に、総勢172名の懐かしい同級生が集い、また再会できたことに感謝しながら共に祝い、語り合い、会場いっぱいに笑顔があふれる最高の同窓会となりました。

オープニングでは、高校時代聞いていた懐かしい音楽と当時の写真のスライドショーに感極まり心はすっかり高校生に：クラスごとの写真撮影ではお互いの顔を見合わせ：その後、誕生月ごとに席替えしてのじゃんけん大会では大盛り上がり！さらに、元応援団による演舞、ファンファーレ、郡高音頭、校歌斉唱！と会場は最高潮に！！そして全員での集合写真撮影へと進み、いつまでもこの楽しく幸せな時間が続いてほしいと願いながらもあつという間に時間は過ぎていきました。ご出席いただきました皆さま、ありがとうございました。また、残念ながらお会いできなかった皆さま、

今回は、8年後の《卒業50年》に、ぜひ！お会いしましょう！人生いろいろ♪まだまだこれからです。再会するその日まで、お互い元気でがんばりましょう！



2002年(平成14年)
卒業生 学年同窓会
平成14年卒 松田 裕介

令和7年12月28日(日)、日航ホテル奈良におきまして、平成14年卒業生の学年同窓会を開催いたしました。学年同窓会としては12年ぶりの開催となりましたが、今回はクラスごとに作成したLINEグループに約7割の方が加入し、その他の同級生に対してもメールや郵便などにより、できる限り網羅的に声掛けをした結果、126名もの参加に繋がりました。また、3年時の先生方にもお声掛けし、7名の先生方にご臨席賜うことができました。

Googleフォームを用いた事前の近況報告アンケートや、当時の昼休みの校内放送番組「集まれKヤング」を模したコーナー、歓談テーブルを学年ごとに途中で変更するなど、大変多くの同級生と当時の思い出を語り合ったり、近況を報告し合うことができました。また、趣味や仕事で新たなつながりができた

り、今後のクラス同窓会の開催や草野球チームの発足に繋がるなど、これからの人生においても有意義な縁がたくさん生まれました。終了後のアンケート結果より次回開催は4年後と決定し、益々活発な同窓会運営に繋がるとともに、冠山会の盛り上がりの一助となれますことを願っています。



冠山会クリーンアップ キャンペーン活動を終えて

昭和50年卒 八尾 明美 (令和7年11月29日実施)

約50年ぶりに母校の南門の坂を登りました。

役員の一人として初めて、11月29日の「冠山会クリーンアップ活動」に参加させていただきました。とてもお天気が良くて日向にいとほしかとあたたまりました。子どもさん連れの方や8時からすでに作業されてる方、HPから申し込んで参加されてる方もおられ、頭が下がりました。担当場所の冠山会館の中に入ると途端に時代の流れを感じました。古いものの整理



■参加申込み■

冠山会クリーンアップ活動への参加につきましては、冠山会ホームページから、お名前(連名も可)、連絡先、人数等をご記入いただき、お申し込みください。

次回のクリーンアップ活動は令和8年11月28日(土)午前9時の予定です。

も含めての大掃除でしたが、あつという間に時間が過ぎました。もちろん体の疲れは翌日にはきっちり出しましたが、その後、食堂で皆さんとご一緒にお弁当もいただきました。いろんな話が弾み、楽しいひと時となりました。なお、白黒写真では分かりませんが、HPに載っている真新しいオレンジのベンチに座らせていただいています。冠山会寄贈の素敵なベンチ、皆さんも一度お座りになられたらいいなと思いました。

「卒業生の今と未来」



郡山高校で学んだことが、世界へつながった

— 私の税関生活と、これから —

● 小田島陽子（昭和51年卒）

した。

昨年の総会後の懇親会を兼ねた学年同窓会では、司会の水本さん（吹奏楽部仲間）との掛け合いで、私のこれまでの仕事人生について楽しくお話しする機会をいただきました。その内容を少しまとめて、先輩並びに同窓の皆さま、そして若い後輩の皆さんにも、ご一読いただければと思います。

私は昭和51年、郡山高校卒業後、大蔵省大阪税関（現・財務省税関）に採用され、また、大阪外国語大学夜間部へ進学し、昼は働きながら夜に学ぶ生活を送りました。当時は女性職員もまだ少なく、今とはずいぶん時代が違いましたが、「国際的な仕事がしたい」という思いで飛び込んだ世界でした。

入関2年目、伊丹空港で女性として初めて旅具検査官（いわゆる税関検査官）に任命されました。新聞やテレビにも取り上げられ、少し驚いたことを覚えています。その後は輸出入通関、事後調査、密輸取締、審理部門などさまざまな部署を経験しま



カンボジア関税消費税総局にて、セミナーの後、現地税関職員の皆さんと。



世界税関機構（WCO）地域事務所勤務時代、米国ワシントンDCにて国連環境計画（UNEP）表彰式に事務所代表として出席。

仕事の中では緊張する場面も多くありました。密輸情報をもとに警察や海上保安庁と連携して張り込みをしたこと、企業への事後調査で「マルサの女」じゃないですが社長さん相手に説明を求めたことなど、今思えば貴重な経験ばかりです。華やかさより、地道に事実を積み重ねる仕事だったように思います。

40代では財務省税関研修所の教官となり、全国から集まる若い職員への研修も担当しました。教える立場になって初めて、自分が多くの先輩方に育ててもらってきたことに気づかされました。また、その頃に放送大学大学院で学び直し、修士号を取得できたことも、大きな財産です。

その後は海外勤務の機会にも恵まれました。タイ・バンコクでは世界税関機構（WCO）の地域事務所にて5年間勤務し、アジア太平洋地域各国の税関近代化支援に携わりました。プータン、モンゴル、フィジーなど、日本ではなかなか行けない国々にも出張しました。文化も考え方も異なる中で、「相手を尊重しながら協力すること」の大切さを学びました。

さらに50代の3年間、カンボジアでJICA専門家として税関行政支援にも従事しました。郡山高校で学んだ一人の生徒が、このように海外で仕事をするとは、当時の自分も想像していません。

かったと思います。

平成29年に税関を退官後は、現在も国際物流会社で税関アドバイザーとして勤務しながら、地域で子ども向け英会話教室を開いています。また行政書士としても、新たな一歩を踏み出しました。

振り返れば、郡山高校で培った「まじめにコツコツ取り組む姿勢」が、私の土台だったように

地域社会への貢献と子どもたちの育成支援を

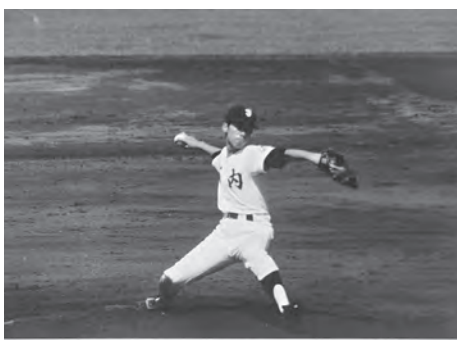
● 竹村 秀一（城内・平成4年卒）

（自己紹介）

こんにちは！城内高校を1992年3月に卒業した竹村秀一です。現在は地元田原本町で不動産会社を経営しています。城内高校在籍時は野球部に所属しており、現在もマスターズ甲子園で城内OBとしてプレーしています。

（卒業後）

父が工務店を経営していたので建築の道へ進むことは高校在学中に決断しました。建築の専門学校へ2年間通い、20歳で就職先を探そうとしていた時に父から北米建築を学びにカナダへ留学という選択肢をもらいました。希望と不安で気持ちも揺れ動きましたが、最終的に留学の道を選択しました。そして2年間カナダ（バンクーバー）での生活を送ることになるのですが、視野が広がったり、色んな文化



第73回全国高校野球選手権奈良大会出場記念



に触れることが出来たりと、今となつてはその選択をして本当に良かったと言えます。

(建築と不動産)

帰国後の1996年3月に父の経営する建築会社へ就職。住宅を売る営業職としての道をスタートさせました。学生時代に設計や施工管理、計画、法規などは学んでいましたが、営業を学んだことはなく当初は苦労しました。ただ経験を積み上げていくことで、営業の奥深さがわ

かり、そうするうちにお客様に喜んでもらえたり、感謝されたり、また紹介をいただいたりと、どんどん「やりがい」に変化していききました。そして2007年、父経営の別会社である不動産会社「株式会社タケソー」(当時)を引き継ぎました。そこから昨年の6月まで一貫して地元田原本町を中心に分譲用地の販売と注文住宅の建築を担ってまいりました。営業として、管理者として、代表者として、色んな視点から500棟以上の住宅建築に関わらせていただきました。

新体育館の落成式

景観に配慮「こう配屋根」



完成した城内高体育館。二階建ての充実した設備を誇る

大和郡山崎町、郡城実がかり、二階建ての完成した城内高体育館。二階建ての充実した設備を誇る。完成した城内高体育館。二階建ての充実した設備を誇る。完成した城内高体育館。二階建ての充実した設備を誇る。



(社会貢献)

2021年、スポーツへの想いや復興への想いなどが評価され「東京



2020オリンピック」の聖火ランナーにも選出していただき、貴重な経験もさせていただきました。



2025年には工務店から完全に独立し不動産業に特化することを決断しました。現在は「タケソー住宅間株株式会社」に商号変更し、より地域や社会に寄り添い、貢献できることは何かと模索を続けています。今年3月には社会人30年という節目を迎えて、今後益々「縁ある人々への貢献」を視野に

入れている活動を考えています。30年の経験を活かして地場工務店の経営や営業を支援する事業や、今も問題が山積みの空き家対策や不動産の相続対策などを解決していき、また未来ある子供たちへの支援なども含めて社会から必要とされる不動産会社

「城内ここにあり」を未来へ

城内高校野球部OB会の歩み

●坂田 孝治(城内・昭和62年卒)

かつて奈良県立郡山高校城内学舎として、多くの青春を育んだ「城内高校」。そのグラウンドで白球を追いかけた仲間たちが、今再び集い、「城内高校野球部OB会」として活動を続けています。

OB会結成のきっかけは、2017年春にさかのぼります。閉校から年月が経ち、「城内高校」という名前が少しずつ記憶から遠ざかっていく中、「何とか後世に名を残したい」「もう一度、仲間たちとユニフォームを着たい」という思いが芽生えました。そこで、歴代監督の先生方にもご協力いただき、会員名簿をもとにOBの抽出を行い、約200名へ案内文を郵送。まさに手探りでスタートでした。

そして2017年11月11日、つ

であり続けたいと考えています。自分自身の人生の目的に向かって、これからも本気で正直に責任をもって、当たり前のことを徹底的に行動していきます。

いに第1回総会を開催。旧城内高校の校舎やグラウンドを巡る見学会を行い、その後、香芝高校野球部OBチームとの練習試合を実施しました。当日は、選手・マネージャーを含め約50名のOBが参加し、さらに歴代監督や恩師の先生方にもご参加いただきました。久々の再会に笑顔があふれ、「また集まろう」「この縁を続けよう」という声が自然と広がったことを、今でも鮮明に覚えています。

その後、「少しでも『城内高校』の名を残したい」との思いから、「マスターズ甲子園」への参加を決定しました。コロナ禍による大会中止という苦難もありましたが、それでも歩みを止めることなく、毎年出場を続けています。

現在のOB会は、決して人数に



余裕があるわけではありません。特に40歳代の参加者が少なく、試合のたびにメンバー集めに奔走しているのが実情です。しかし、平均年齢50歳近いチームとは思えないほど、皆が全力で白球を追いつけています。対戦相手に若手中心の強豪校OBチームも多い中、毎年のように本塁打を放つ選手、大会で紹介されるほどのファインプレーを見せる選手もあり、「城内ここにあり」を体現してくれていると感じています。

また、OB会の魅力は野球だけではなくありません。試合後の懇親会では、世代を超えて思い出話に花が咲き、「城内」という共通の青春が、今も人と人をつないでいます。

でいます。野球経験の有無や現在の体力は関係ありません。「久しぶりに顔を出してみたい」「懐かしい仲間会いたい」という気持ちだけでも大歓迎です。

先日開催された冠山会総会にも、城内卒業生約10名が参加しました。そこで改めて感じたのは、冠山会の持つ組織力と、母校への深い愛情でした。その熱気に触れ、「城内の仲間たちも、もつと立ち上がらなければならぬ」という声も自然と上がりました。冠山会の中で「麒麟会」再始動への期待も高まりつつあります。

城内高校は閉校しました。しかし、そこで過ごした青春や仲間との絆は、決して消えるもので

はありません。だからこそ、私たちは「城内高校野球部OB会」を通じて、その名を未来へつないでいきたいと考えています。

ぜひ一人でも多くのOB・OGの皆さまに、野球や懇親会へご参加いただければ幸いです。グラウンドでも、懇親の席でも、「城内」の絆をもう一度確かめ合いましょう。

【連絡先】

城内高校野球部OB会事務局
坂田 孝治（城内高校第10回卒業）
電話：090-9255-5531
E-mail：sakata@vap-s.com

「郡高生の今」

【第四十五回全国高校生読書体験記コンクール 優良賞】

人生はカラフル

二年九組 神 絢菜

本のタイトルはその本のもっとも伝えたいことや、その本の象徴だと思っています。それで、今回私が読んだ本は『カラフル』という本です。そのタイトルを見た時、どんな面白い話なんだろうと思いました。でもこの本を読み始めた時、私は明るいとは真逆の印象を受けました。

どんな話かというと、「ぼく」の死んだはずの魂が、生前の罪により死後の世界でも転生出来ずにいました。しかしそこに現れた天使により「小林真」という少年の人生をもう一度やり直せるチャンスを手に入れます。ただし、決められた期限までに生前自分が何の罪を犯したかを思い出し、人生を大切にする気持ちを取り戻さないと、本当に消えてしまうというものでした。小林真として過ごす中で、色々な問題に直面しながらも、人の優しさ、弱さ、苦しみを知っていくというものです。

このような転生や生まれ変わりとなどといった話はいくつか読んだことがあります。でもどの

話も前の世界で出来なかったことを楽しんだり、会いたかった人に会うなど、生まれ変わったことを喜ぶというものが多かったです。しかし、この本では、「なんでぼくがこんなことをしなきゃいけないの。」と言ったり、兄に、「別にお前のことなんか、どうでもいいし。」

と言われるなど、小林真の心情、周りの環境、家族のどこを切り取っても暗い描写が多く、すごく驚いたのを覚えています。でも、逆にその暗い雰囲気、私には読みやすく感じました。というのも、主人公の小林真と似たような悩みを私も持っていたからです。

私は、今高校で弓道部の部長をしています。中学校でも部長をしていたのですが、人間関係など上手くいかず悩んでばかりいました。そういうこともあり、高校の先生から部長にと言われてたとき、とても悩みました。ですが、中学校での経験を活かし、次は上手く出来るように頑張る



うと思ひ、引き受けることにしました。しかし、注意することゝが苦手だったり、やらなければいけないことが多く手に負えなくなってきた、バタバタして失敗し落ち込む毎日でした。そして失敗が続き、自分の悪いところ、出来ないところばかり見えてきて、自分には向いていないのかと主人公と同じようなマインナな気持ちになつていました。投げ出したと感じてしまふこともありました。

そんな中でも、主人公は少しずつ人との繋がりや、自分の中にある優しさに気づいていきます。そして、私も主人公と一緒に心の中に少しずつ光が差していくのを感じました。そして、

「あそこでみんなといっしょに色まみれになつて生きていこう。たとえそれが何のためかわからなくても！」

という文を読んだとき、パツと心が鮮やかに彩られた感覚になりました。

人の心は本当に鮮やかで、とてもカラフルです。冷たいように見える人の心の中には色々な気持ちを隠しているだけかもしれないし、自分と合わない人がいたとしてもそれは、今まで知らなかった「新しい色」に出会えたということかもしれません。そういうのを全て含めて「人生はカラフル」ということを教えてくれた本だと私は思います。それに気づいたとき、この本の

タイトル「カラフル」の意味をやつと理解出来た気がします。

この物語の中には、そのままの自分でも、生きていいんだよというメッセージも込められていたと思います。辛いことがあつてもそれだけで辛い人生ではない。むしろ、苦しみや悲しみがあるからこそ、人の優しさや温かさを感じられるのかもしれない。そして、何よりそういう色々な経験が、自分自身の色になつていくのだと思います。

今はこんな風に思つていてもまた悩みに直面したら、くよくよしたり落ち込んでしまうとあります。それでも少し心の中に「人生はカラフルなんだ」という考えがあるだけで自分を責めすぎず、前を向ける気がします。どんな色であつても、それが自分の色だと思えるように、自分の人生を自分の色で彩つていきたいです。

心の奥の暗い部分にも優しく寄り添ってくれて、そしてそこに小さな光を灯してくれるような物語でした。私は、人生をこんな風に思わせてくれたこの本に出会えて本当に良かったなと思うし、間違いなく私の心の中に残る小説の一つだと思います。

『カラフル』森絵都(文藝春秋)



冠山会活動 最新ニュース



日本最高齢 賀川滋子さんに 長寿のお祝い

令和7年11月18日、郡山高等女学校(現・郡山高校)の卒業生で国内最高齢114歳の賀川滋子さん(大和郡山市在住)を「冠山会」の奥田秀紀会長、松本隆善副会長、阪本裕紀子副会長の3名が長寿のお祝いにご自宅を訪問いたしました。

賀川さんは1911年(明治44年)大和郡山で生まれ、1929年(昭和4年)に当校卒業後、大阪女子高等医学専門学校(現・関西医科大学)に進学され、産婦人科医、内科医として勤務さ

れました。1937年(昭和12年)大和郡山市内に開院され、地域医療に長年貢献されてきました。

当日は訪問を笑顔でお迎えいただき、昭和初期の郡山の町並みや学生時代の思い出などを詳しくお話いただきました。当時、周りには藁葺き屋根の農家がたくさんあり、郡山城跡の堀や田んぼから蛙の鳴き声がしていたなど、当時の風情を懐かしくお話されていました。また、医学学校に通っていた時の通学の様子や実験で苦労されたことなど貴重なご経験やご体験をお伺いすることができました。

奥田会長からは「信念をもつてたくましく生きられている姿に母校の誇りを感じた。これからもわれわれの目標であり続けてほしい」という話がありました。

なお、この様子は、11月29日付けの奈良新聞に掲載されました。



桜花グラウンドに 待望のウォータークーラー設置

令和8年3月、授業や部活動で生徒が使用する桜花グラウンドのウォータークーラーを寄贈しました。十分な水分補給で充実した活動を！



冠山会館前庭に 枝垂れ梅5本を寄贈しました！

毎年3月の卒業式を冠山会館からお迎えできますように、冠山会館及びその周辺整備事業のスタートです。これから先もずっと華やかに咲き誇り続けてほしいです。



生徒用ベンチ2台を 追加寄贈しました！

冠山会館前に長年使用されてきたベンチの劣化に伴い、昨年度鮮やかなオレンジ色で色落ちや錆びない生徒用ベンチを2台寄贈しました。今年度の新規事業として、追加2台のベンチがこのたび新たに設置されました。今年のベンチは爽やかなホワイト。いつまでも後輩たちに愛用されると大変嬉しいです。



武道館にスポットクーラーを 寄贈いたしました！

令和7年6月、武道場にスポットクーラーを寄贈しました。随分、涼くなりましたと部員たちが活動に意欲を燃やしているとのこと。



おめでとう
ございます

令和7年褒章受章者

春の叙勲

旭日双光章

吉村 之宏

昭和45年卒
県機械工業協同
組 組合理事長

瑞宝双光章

黒田 八郎

昭和44年卒
元公立中学校
校長

秋の叙勲

瑞宝小綬章

森田 真康

元職員
元公立高校
校長

瑞宝单光章

西谷喜代嗣

昭和49年卒
元斑鳩町
消防団長

冠山会活動への ご協力お願い

“冠山会だより”の発行事業は会員(卒業生全員)の協力金で運営されています。今後、一層充実した同窓会活動をしていくために“冠山会だより”に企業広告を掲載していただける方を募っています。

■広告掲載料 1マス 5,000円 2マス 10,000円 4マス 20,000円
※寄付金専用口座にお振り込みください。

〇〇株式会社
冠山 太郎 S〇年卒

1マス ¥5,000
約9cm × 約5cm

冠山会は母校を支援する数々の取組を行っています

1. 生徒活動支援費

文化部／体育部の別	部 名	内 容 (全て激励費)	金額(単位 円)
体育部	陸上競技部	・ 近畿高等学校ユース陸上競技対抗選手権大会 ・ JOCジュニアオリンピックカップ第19回U18 / 第56回U16陸上競技大会 ・ 女子第41回近畿高等学校駅伝競走大会	37,000
体育部	山岳部	・ 第30回近畿高等学校スポーツクライミング大会 ・ 第16回全国高等学校選抜スポーツクライミング選手権大会	52,000
体育部	ホッケー部	・ 第47回近畿高等学校ホッケー選手権大会 男子団体・女子団体	20,000
体育部	バスケットボール部	・ 第72回近畿高等学校バスケットボール大会 女子団体 ・ 第36回近畿高等学校バスケットボール新人大会 団体	20,000
体育部	剣道部	・ 第63回近畿高等学校剣道大会 男子団体、女子団体、個人1名 ・ 第19回近畿高等学校剣道選抜大会(近畿(団体))	31,000
体育部	ソフトテニス部	・ 近畿高等学校ソフトテニス選手権大会 団体・個人 ・ 令和7年度近畿高等学校ソフトテニス選抜インドア大会 個人(女子)	14,000
体育部	水泳部	・ 第79回近畿高等学校選手権水泳競技大会 個人 ・ 第9回近畿高等学校新人水泳競技大会 個人	23,000
体育部	弓道部	・ 令和7年度第78回近畿高等学校弓道大会 個人	7,000
体育部	ハンドボール部	・ 令和7年度第68回近畿高等学校ハンドボール部選手権大会 男子団体・女子団体	20,000
体育部	バドミントン部	・ 第72回近畿高等学校バドミントン選手権大会 個人(男子・女子)	4,000
体育部	硬式テニス部	・ 第48回全国選抜テニス大会(全国(個人))	3,000
体育部	卓球部	・ 第79回近畿高等学校卓球選手権大会 個人(女子) ・ 第40回近畿高等学校新人卓球大会 女子団体	12,000
体育部 計			243,000
文化部	合唱部	・ 第49回全国高等学校総合文化祭 かがわ総文祭 2025	20,000
文化部	箏曲部	・ 第49回全国高等学校総合文化祭 かがわ総文祭 2025 日本音楽部門	20,000
文化部	書道部	・ 第49回全国高等学校総合文化祭 かがわ総文祭 2025 (全国・個人)	3,000
文化部	吹奏楽部	・ 第52回関西アンサンブルコンテスト(近畿(個人)) ・ 第30回全日本高校生管打楽器ソロコンテスト関西大会(近畿(個人))	4,000
文化部 計			47,000
部局	放送局	・ 第72回NHK杯全国高校放送コンテスト 個人	3,000
部 局 計			3,000
合 計			293,000

2. 教育事業支援金

支出先	内 容	金額(単位 円)
リーダー育成海外研修引率教員	リーダー育成海外研修学校負担金補助	100,000
教育事業支援金 計		100,000

3. 母校教育支援費

支出先	内 容	金額(単位 円)
(株)タカギ	ベンチ2台	126,720
(株)郡山協同園芸	しだれ梅5本及び準備作業1式	198,000
(株)桜井電業社	桜花グラウンドウォータークーラー(振込手数料220円)	222,420
母校教育支援費 計		547,140

4. 予 備 費

支出先	内 容	金額(単位 円)
木村 喜美男先生(立替)	MAXZEN スポットクーラー(武道場に設置)	60,280
賀川 滋子	長寿お祝い	29,900
予 備 費 計		90,180

5. 総 会 費

支出先	内 容	金額(単位 円)
冠山会幹事 森井 裕子	5/11総会 呈茶御礼	20,000
予 備 費 計		20,000

R 7 1. 生徒活動支援費 + 2. 教育事業支援金 + 3. 母校教育支援費 + 4. 予備費 + 5. 総会費 合計

1,050,320

文武両道に立つ！

今年度も372名の生徒が、この郡山高校を卒業していきました。朝早くから下校時間ギリギリまで、教室や進路指導室で勉強に励む姿を見てきましたが、受験勉強という荒波を越え、彼らの顔つきも、行動も、考え方も、見違えるほど逞しく成長したと感じています。そして、母校を旅立って一ヶ月後、新しい環境で、多くの祝福と歓迎の言葉を受けたことでしょう。

さて、東京大学の入学式祝辞は、時に社会的な議論を呼び起こします。記憶に新しいのは2019年、社会学者の上野千鶴子氏による祝辞です。当時発覚した不正入試問題に触れ、日本のジェンダーギャップを鋭く指摘しました。「がんばったら報われると思えることそのものが、努力の成果ではなく、環境のおかげ。あなたたちのがんばりを、どうぞ自分が勝ち抜くためだけに使わないでください」このメッセージは、今なお色褪せない重みを持っています。

そして今年度、壇上に立ったのは劇作家の野田秀樹氏でした。「一人20年生きていて……20かける3000（入学者数）、つまり6万年分の東大生の記憶が、この武道館に集まっている」そんな壮大な語り出しから、野田氏はAI時代における「学問」の本質を説きました。「芸術は、表現された結果であると同時にプロセスです。その過程に喜びと苦しみがある。学問もそうだと思います。『問いに答えていくプロセス』に苦しみ、その問いが解けたとき、たとえようもない喜びを感じる。じつはそれは、あなたにその心を感じる『有限の身体』があるからです」。

「タイパ（タイムパフォーマンス）」や「コスパ」が至上命題とされる現代において、郡山高校で過ごした三年間は、その対極にある時間だったかもしれません。しかし、そこには効率では計れない「心の震え」がありました。進路指導室を去り際に生徒がぼつりとこぼした不安、不合格の知らせに流した涙、そして合格を勝ち取った瞬間の達成感、親や友人、先生への心からの感謝、こうした生々しい感情のプロセスは、生成AIとのやり取りの中には決して存在しません。

結果だけを見れば、「合格」か「不合格」という二つの言葉に集約されてしまうでしょう。しかし、その結果に至るまでの、迷い、悩み、足掻いた「プロセス」こそが、何物にも代えがたい財産であり、これからの人生を支える背骨となります。郡山高校での日々が、AIは決して経験し得ない、生徒一人ひとりにとっての「かけがえのないプロセス」であったことを、私は確信しています。

2025年度卒業生の進路状況

■ 進路状況 (実人数)

	受験者数	4年制大学				短期大学	準大学	専修学校 (各種学校)	就職	その他
		国公立			私立					
		計	国立	公立						
令和8年3月卒業生	372	117	79	38	195	0	0	3	0	57
既卒生	42	24	15	9	18	0	0	0	0	
合 計	414	141	94	47	213	0	0	3	0	57

■ 2026年度入試 合格者数

国公立大学	合格者数	国公立大学	合格者数	私立大学	合格者数	私立大学	合格者数	私立大学	合格者数
北海道	3	島根	2	上智	1	立命館	109	摂南	16
弘前	1	岡山	1	武蔵野美術	1	龍谷	143	桃山学院	3
福島	1	徳島	2	早稲田	2	追手門学院	5	森ノ宮医療	8
筑波	1	香川	1	京都外国語	2	大阪医科薬科	4	大和	6
新潟	1	九州	1	京都工芸美術	1	大阪経済	6	関西学院	61
富山	1	佐賀	1	京都産業	15	大阪芸術	2	甲南	4
信州	2	宮崎	1	京都女子	16	大阪工業	24	神戸薬科	1
静岡	1	琉球	1	京都精華	1	大阪産業	15	武庫川女子	17
名古屋	1	富山県立	1	京都薬科	4	大阪商業	1	畿央	61
三重	6	滋賀県立	2	嵯峨美術	1	関西	216	帝塚山	6
滋賀	4	京都府立	4	同志社	112	関西外国語	12	天理	1
京都	1	京都市立芸術	1	同志社女子	73	近畿	297	奈良学園	2
京都教育	4	大阪公立	28	佛教	6	四天王寺	2	私立合計	1,257
京都工芸繊維	6	兵庫県立	3						
大阪	9	神戸市外国語	3						
大阪教育	11	奈良県立	4						
神戸	9	奈良県立医科	5						
奈良教育	14	国公立合計	147						
奈良女子	5								
和歌山	4								
鳥取	1								

短大・専門学校等	合格者数	短大・専門学校等	合格者数
大和大学白鳳短期大学部	2	大阪アミューズメントメディア専門学校	1
奈良看護大学校	1	大阪医専	1
奈良市立看護専門学校	1	大阪航空専門学校	1
関西美容専門学校	1	短大・専門学校等 合計	9
近畿大学附属看護専門学校	1		

令和7年度
クラブ活動の記録

令和7年4月から令和8年3月まで

【運動部】

◆陸上競技部◆

阪奈和对抗出場

女子 3000m

4×100m

奈良県選手権大会入賞

男子 三段跳

女子 走幅跳

4×400m

全国高校総体県予選大会入賞

男子 三段跳

女子 走幅跳

100m

4×400m

近畿高等学校ユース県予選

2年の部男子

100m

1年の部男子

100m

400m

800m

男子 4×100m

2年の部女子

400m

1年の部女子

100m

200m

1500m

女子 4×100m

4×400m

近畿高校ユース

1年女子

100m

200m

JOCジュニアオリンピックカップ

第56回U16陸上競技大会

女子B決勝 150m

高校駅伝県予選

女子

6位

7位

近畿高校駅伝

女子

36位

◆野球部◆

春季県大会

選手権奈良大会

秋季県大会

21世紀枠推薦校近畿代表

令和7年度奈良県高等学校野球連盟

優秀選手表彰

主将 辰巳亜斗夢

◆ソフトテニス部◆

令和7年度ハイスクールジャパン

カップ奈良県予選

女子個人 ベスト16

全国高等学校総合体育大会

奈良県予選

女子個人 ベスト16

女子団体 ベスト16

令和7年度近畿高等学校ソフトテ

ニス選手権大会

女子個人 出場

女子団体 出場

学年別大会

男子1年の部 ベスト8

女子2年の部 ベスト16(2ペア)

北部地区大会

男子個人 ベスト8(2ペア)

ソフトテニス新人大会

女子個人 ベスト16

令和7年度近畿高等学校ソフトテ

ニス選抜インドア大会

女子個人 出場

◆バスケットボール部◆

2025年度全国高等学校総合体育

大会県予選

男子 1回戦敗退

女子 第3位(近畿大会出場)

第72回近畿高等学校バスケットボー

ル大会

女子 1回戦敗退

2025年度全国高等学校バスケット

ボール選手権大会県予選

男子 1回戦敗退

女子 第3位

2025年度奈良県高等学校バス

ケットボール新人大会

男子 1回戦敗退

女子 第2位(近畿大会出場)

◆バレーボール部◆

女子 第3位

2025年度奈良県高等学校バス

ケットボール新人大会

男子 1回戦敗退

女子 第2位(近畿大会出場)

◆バレーボール部◆

春季選手権大会

男子 郡山2対1奈良学園

郡山0対2法隆寺国際

郡山0対2高田

郡山0対2奈良 第8位

郡山2対0奈良女子大附属

郡山0対2一条

全国高校総体県予選

男子 郡山2対0東大寺学園

郡山0対2添上 ベスト8

郡山2対0法隆寺国際

郡山0対2高田商業

全日本選手権大会県予選

男子 郡山2対0奈良北

郡山1対2檀原 ベスト8

郡山2対0法隆寺国際

郡山1対2高田

新人大会

男子 予選リーグ2位通過

(2勝1敗)

郡山2対0法隆寺国際

郡山0対2添上 ベスト8

予選リーグ3位

(1勝2敗)

◆ソフトボール部◆

近畿大会

インターハイ予選

新人大会

第3位

第3位

第3位

◆卓球部◆

全国高校総体奈良県予選会

女子ダブルス ベスト8

近畿高等学校卓球選手権大会

女子ダブルス 出場

全国高等学校選抜卓球大会

女子団体 ベスト8

近畿高等学校新人卓球大会

女子団体 出場

男子 優勝

準優勝

インターハイ予選

◆ハンドボール部◆

春季大会

男子 優勝

女子 準優勝

インターハイ予選

男子 準優勝

女子 準優勝

近畿大会

男女ともベスト16

新人大会

男子 3位

女子 4位

◆サッカー部◆

インターハイ予選

2回戦敗退

全国高校サッカー選手権予選

ベスト16

2部10位

ベスト16

県U-18リーグ

新人大会

男子 800m自由形

女子 千五百m自由形

男子 百m背泳ぎ

女子 百m背泳ぎ

男子 百m平泳ぎ

女子 百m平泳ぎ

男子 200m平泳ぎ

女子 200m平泳ぎ

男子 200m個人メドレー

女子 200m個人メドレー

男子 200m個人メドレー

女子 200m個人メドレー

男子 400m個人メドレー

女子 400m個人メドレー

男子 500m自由形

女子 500m自由形

男子 400mリレー

女子 400mリレー

男子 400mリレー

女子 400mリレー

男子 400mメドレーリレー

女子 400mメドレーリレー

男子 400mメドレーリレー

女子 400mメドレーリレー

男子 400mメドレーリレー

女子 400mメドレーリレー

男子 400mメドレーリレー

女子 400mメドレーリレー

男子 4×200mリレー

女子 4×200mリレー

第3位

第3位

第3位

第3位

第3位

第3位

第3位

第3位

第3位

第3位

第3位

第3位

第3位

第3位

第3位

第3位

第3位

第3位

第3位

第3位

第3位

第3位

第3位

第3位

第3位

第3位

第3位

第3位

第3位

第3位

第3位

第3位

第3位

第3位

第3位

第3位

第3位

第3位

第3位

第3位

第3位

第3位

第3位

第3位

第3位

第3位

第3位

第9回近畿高等学校新人水泳競技大会
前記入賞者出場

◆剣道部◆

全国高校総体県予選

男子団体

女子団体

男子個人

女子個人

近畿高校剣道大会

男子団体

女子団体

男子個人

女子個人

県高校総体

男子総合

女子総合

県高校新人大会

男子団体

女子団体

男子個人

女子個人

全国高校選抜県予選

女子団体

男子団体

女子個人

男子個人

近畿高校選抜大会

女子団体 出場

◆弓道部◆

第79回国民スポーツ大会

少年女子近畿の部

3位 (村井唯夏 関本恋奈)

第78回近畿高等学校弓道大会

決勝リーグ進出(ベスト8)

(関本恋奈 界久保椎菜)

清水晶帆 神田柚衣

村井唯夏 松村結

◆山岳部◆

(各大会)

全国高校総体奈良県予選

国見山、三郎岳

男子団体

チームA1

チームA2

チームA3

女子団体

全国高校総体・広島 恐羅漢山

男子団体

近畿高校登山大会

兵庫・鉢伏山

男子団体A

男子団体B

男子団体C

県新人登山大会・高見山

(合宿山行)

夏合宿北アルプス 奥穂高岳

(日帰り山行)

奈良・葛城山、島根・大山、奈良・

国見山、三郎岳、京都・鷲峰山、奈

良・稲村ヶ岳、兵庫・摩耶山、三重

・青山高原、奈良・音羽三山、兵庫

・六甲山、京都・愛宕山、滋賀・堂満

岳、奈良・高見山、滋賀・打見山

く蓬萊山、京都・大文字山

◆ホッケー部◆

全国高校総体県予選

男子 第2位

女子 第2位

近畿大会

男子 出場

女子 出場

選抜県予選

男子 第4位

女子 第3位

県新人大会

男子 第3位

女子 第2位

【文化部】

◆新聞局◆

「啓明新聞」第二八五号発行

◆放送局◆

第72回NHK杯全国高校放送コン

テスト奈良県大会

アナウンス部門 優良賞1名

第72回NHK杯全国高校放送コン

テスト全国大会

アナウンス部門 1名出場

第40回奈良県高等学校総合文化祭

放送部門

朗読部門

第42回奈良県高等学校放送コンテスト

朗読部門

3月20日に行われる大和郡山市ア

イデアサポート事業「ファミリコ

ンサート」の司会を担当します。

◆吹奏楽部◆

第六七回奈良県吹奏楽コンクール

高等学校の部J

高等学校の部A

第四〇回県高総文祭吹奏楽部門

大和郡山市創立五〇周年記念事業

JCオータムフェスタ

JCOオータムフェスタ

みん芸 アート・ライブ

校内アンサンブル発表会

第五三回奈良県アンサンブルコンテスト

高等学校の部

クラリネット3重奏

第五二回関西アンサンブルコンテスト

クラリネット3重奏

金賞・県代表

銀賞

◆合唱部◆

5月3日(土・祝)

第18回郡山高校合唱部定期演奏会

〈ONGMORやまと郡山城小ホール〉

6月15日(日)

第63回奈良県合唱祭出場 審査

員賞受賞〈さざんかホール〉

7月31日(木)

第49回全国高等学校総合文化祭

かがわ大会〈サンポートホール

高松〉奈良県選抜女声合唱団と

して4名参加

8月8日(金)

第92回NHK全国学校音楽コン

クール奈良県大会出場 銀賞受賞

〈さざんかホール〉

8月11日(月・祝)

第35回奈良県合唱コンクール高

等学校部門Aグループ出場 銀賞

受賞〈さざんかホール〉

11月8日(土)

第40回奈良県高等学校総合文化

祭・合唱部門参加〈さざんかホー

ル〉

11月23日(日・祝)

第40回奈良県高等学校総合文化

祭・総合発表合唱部門参加〈榎

原文化会館〉

12月21日(日)

第19回奈良ヴォーカルアンサン

ブルコンテスト出場 金賞受賞

〈さざんか小ホール〉

3月14日(土)

第18回大和郡山市合唱フェス

ティバル出演〈ONGMORやま

と郡山城ホール〉

新入生歓迎会、文化祭、学校説明

会等の学校行事、また大和郡山市

主催行事等にも参加。

◆華曲部◆

7月 第49回全国高等学校総合文

化祭香川大会日本音楽部門

出演

10月 第40回奈良県高等学校総合

文化祭日本音楽部門出演

12月 たんとん郡高広場クリスマス

入会にて演奏

3月 第65回大和郡山お城まつり

にて演奏

〔校内〕新入生歓迎の集い、定期演

奏会、文化祭で演奏

◆演劇部◆

第四十回奈良県高等学校総合文化

祭演劇部門並びに第五十回奈良県

高等学校演劇発表会県予選

優秀賞

第四十回奈良県高等学校総合文化

祭総合発表演劇部門 出演

◆茶道部◆

六月 学生合同茶会(中ブロック)

に参加し、薄茶席・水屋体

験を通して、他校の学生生

徒と交流した。

文化祭にて、校友会館にお

いてお茶会を開催し、ひと

ときの涼をお客様に楽しん

でいただいた。

三月 お城祭りにて、柳澤文庫前

でお茶会を催し、市民の方々

にもご好評いただいている。

毎週火曜日・金曜日は校友会館二

階和室でお稽古を続けている。

◆科学部電気班◆

WRO Japan 2025奈良予選会 ROBO

MISSION エキスパート競技

シニア部門 3位入賞

◆科学部化学班◆

「サイエンスなら」科学研究実践活

動発表会

ポスター発表 参加

◆生物部◆

グリーンヒドラの再生に関する実

験・研究を行い、「サイエンスなら」

科学研究実践活動発表会(口頭発

表部門最優秀賞)、青翔高等学校研

究発表会等にて口頭発表・ポスター

による研究発表を行う。

青少年科学の祭典に参加。「生き物

プラ板つくり」を行った。

鷺池水生プラントトン調査など各

種実験観察を行う。

◆美術部◆

第40回奈良県高等学校総合文化祭

ポスター

原画 佳作

第40回奈良県高等学校総合文化祭

美術工芸部門

優秀賞(十津川巡回展賞)

第33回奈良県高校生アートグランプリ

平面の部 特別賞

第43回奈良県読書感想画コンクール

佳作

柳澤神社絵馬奉納

校内人権作文集

体育大会プログラム

文化祭講堂入口

シンボルアート制作

大和郡山市図書館

こどもフロア

立体作品展示

◆ESC◆

英語プレゼンテーション大会 World

Youth Meeting 2025

5名参加(8月)。

第7回奈良県高等学校英語暗唱大会

1名参加(11月)。

第76回奈良県高等学校英語弁論大会

2名参加(11月)。

第1位を獲得し、第21回近畿高

等学校英語スピーチコンテスト

に出席、第3位入賞(12月)。

奈良県高等学校英語部交流会イン

グリッシーフェスティバル

7名参加(12月)。

第4回奈良県高等学校ティベート大会

7名参加。優良賞受賞(12月)。

トピックス

野球部の活動

顧問 岡野 雄基

郡山高校野球部は、今年創部130周年を迎える県内有数の長い歴史を持つ野球部です。甲子園に12回出場し、47年間郡山高校野球部の監督を務められた森本達幸監督の時代には、天理高校、智辯学園と共に奈良の御三家と称され県内有数の強豪公立校として名を馳せてきました。現在は、OBの方たちから受け継いだ伝統を大切にしながら、2000年以降の甲子園出場を目標に、桜花グラウンドで日々汗を流しています。一時期は20人にも満たない人数で大会に出場することもありました。近年少しずつ入部者も増え、現在は47名（1年・14名 2年・22名 3年・11名）で活動しています。

今、本校野球部では「野球を全力で楽しむ」ことをモットーに活動しています。より高いレベルを求め、その中で感じられる野球の面白さ、そこしか味わえない緊張感、大切な仲間だから超えられる壁があること、何より支えてくださる周囲への感謝を行動で示すこと、高校野球から学び感じられるすべてを、選手・マネージャー一人一人が学び、考え、熱く取り組んでいます。また、野球以外の活動にも積極的に参加しています。学校行事での準備片付け、定期的な町の清掃活動、少年野球との交流会などに関わる中で、自分たちが当たり前に野球ができていたことのありがたさにも改めて気づきました。それを肌で感じた選手が発案し、公式戦の日には、30分早く球場へ行き、アッポの前に全員で球場周りの清掃活動を行うことも決め、選手から選手へとその思いを受け継いでいます。ほかにも、マネージャーは練習試合でアナウンスの練習を行い、公式戦での放送担当として野球に恩

返しをしたいと申し出て、今では大会のアナウンスや開会式に関わらせていただいています。野球を全力で楽しむ」「応援してもらえらるチームになる、頼られる人になる」。文武両道とともに、この2つの両立も目標に日々取り組んでいます。そんな中、昨年の秋季大会では県ベスト4、令和6年度からの6大会で4度の4強入りと着実に力をつけてきています。OB・OG、オールドファンや地域の方からも、郡高が少しずつ復活してきた、これも元気の出るわと言っていたり、機会も増え、野球部が多面で支えられ応援して頂いていることを実感する日々です。また今年の春に行われた、第98回選抜高等学校野球大会の21世紀枠近畿代表校として選出された、甲子園出場こそなりませんが、自分たちの目指していることを評価していただき自信につながることでできました。これを励みに、より一層の努力研鑽を重ね頑張っています。

えました。ちょうどそのころ、大谷翔平選手が二刀流HR王でMVPを獲得しました。打って走って投げてすべてを全力で野球をする姿は、「野球を楽しむ」姿そのものでした。勝つための作戦やその練習ばかりで、楽しむことよりその体現ばかりに選手に求めていることは、本当に選手にとつて野球を楽しむことにつながっているのかを考えさせられました。それ以来、選手・マネージャーが高みを目指すために主体的に考える「考動野球」を目指し指導を行っていきます。部員や周囲の方々に支えていただくことも多く、まだまだ未熟ではありますが、郡高らしく日々の甲子園出場を果たせるよう日々取り組んでおります。選手・マネージャーが生きて活躍する野球部を目指し、部員の夢実現のため微力ながら精一杯頑張っていきます。これからも、郡山高校野球部、選手・マネージャー・指導者一同頑張つてまいりますので、応援よろしくお願いいたします。



教員退職

	氏名	職名	新所属	教科等	備考
1	木村 義則	教諭		数学	
2	岡本 恵子	教諭		英語	
3	笠原 成介	再任用教諭		地歴公民	
4	栗林 伶佳	臨時講師		理科	定数内
5	久米 桂子	臨時講師		国語	任期付

教員転出

	氏名	職名	新所属	教科等	備考
1	池永 克好	教頭	西和清陵		校長
2	山崎 庸右	教諭	奈良	地歴公民	
3	林 美帆	教諭	郡山	理科	教頭
4	中本 孝則	教諭	体育健康課(併任)	保健体育	
5	前田加奈子	教諭	奈良北	英語	
6	吉田 聡	教諭	大和中央(通信制)	英語	教頭
7	田村 英俊	臨時講師	畝傍	数学	任期付
8	玉井 研二	臨時講師	畝傍	理科	任期付

育児休業

	氏名	職名	期間	教科等	備考
1	川口 億	教諭	R7.9.16~R8.7.24	数学	
2	藤木 玲	教諭	R7.12.27~R8.10.27	保健体育	

教員転入

	氏名	職名	旧所属	教科等	備考
1	林 美帆	教頭	郡山	(理科)	教頭
2	和口 純平	教諭	大和中央(定時制)	地歴公民	
3	松本真菜子	教諭		地歴公民	新規採用
4	小林 海斗	教諭	法隆寺国際	数学	
5	金田 義亮	教諭	奈良	理科	
6	塚本 尚子	教諭	高取国際	英語	

7	木村 鷹斗	教諭	高円芸術	英語	
8	岡田 良太	教諭	一条(講師)	英語	新規採用
9	阪口 浩子	臨時講師	郡山(再任用教諭)	国語	定数内
10	木山 康史	臨時講師	郡山(再任用教諭)	理科	定数内
11	乾 義輝	臨時講師	添上	英語	定数内
12	吉岡 俊治	臨時講師		数学	任期付
13	藤居 優希	臨時講師		保健体育	補充

休業より復帰

	氏名	職名	備考
1	山崎 寿帆	教諭	育児休業より
2	吉本真奈美	教諭	育児休業より
3	山崎 杏奈	教諭	育児休業より

再任用教諭継続

	氏名	職名	旧所属	備考
1	窪田 雅子	再任用教諭	郡山	地歴公民
2	登日 正人	再任用教諭	郡山	地歴公民
3	河野 正弘	再任用教諭	郡山	理科
4	西田 嘉男	再任用教諭	郡山	理科

臨時講師継続

	氏名	職名	旧所属	備考
1	石本 昇	臨時講師	定数内	理科・情報
2	木村喜美男	臨時講師	定数内	英語
3	東田 葉奈	臨時講師	任期付	保健体育

非常勤講師

	氏名	教科	時間数
1	笠原 成介	地歴公民	9(新採補充)
2	上田由紀子	英語	9(新採補充)
3	松浦 宏史	数学	7

令和8年度

人事異動

令和7年度 事業報告

1 本部役員会及び役員会の開催

- (1) 6月21日(土)第1回本部役員会 13:00～
令和7年度冠山会総会の総括、冠山会だより第45号の発行に関する最終確認、新規事業の企画・立案、冠山会ホームページの開設確認、冠山会クリーンアップ活動、学年同窓会開催への支援協議、役員各位の役割分担等の協議。
- (2) 6月21日(土)第1回役員会 15:00～
学校長、教頭、事務長の参加により学校との連携協力を確認。冠山会だよりの構成及び冠山会HPとのリンクに関する協議。卒業50年学年同窓会の総括。令和7年度の新規事業について協議し、学年同窓会開催支援の継続を確認。母校支援強化に関する協議。卒業50年招待準備委員の選出等。
- (3) 9月30日(火)第2回本部役員会 13:00～
冠山会の今年度の活動指針(ツートワン)を確認し、母校支援の強化及び学年同窓会開催支援の拡充、冠山会ホームページの運用を協議。冠山会だより発行後の事務処理状況を確認。次年度の活動指針を「ツートワン」への確認。冠山会館整備事業の計画立案。冠山会諸事業についての計画立案。冠山会クリーンアップ活動の実施計画。学校との情報交換会の計画立案。冠山会への寄付金口座の新規開設案を協議。役員各位の3委員会(会報発行委員会・総会企画委員会・事業立案委員会)への所属案を協議。
- (4) 9月30日(火)第2回役員会 15:00～
冠山会だより拡充に伴う構成を協議。冠山会だよりと冠山会ホームページとのリンクを確認。最近のニュース欄及び卒業生の「今とここ」欄の充実を協議。母校支援の具体案を協議。各年代が開催する学年同窓会への奨励金1開催につき5万円を支援決定。冠山会ホームページの構成変更(各行事への参加申込みを新規開設)を協議。冠山会クリーンアップ活動の当日の活動案を確認。学校との情報交換会の内容を説明。役員の3委員会所属を決定し、活動内容を確認。
- (5) 11月29日(土)第3回本部役員会 13:00～
冠山会会則の一部変更を協議。学校との情報交換会から冠山会の活動内容を協議。新たな母校支援を確認。学年同窓会開催の申込みを確認。日本最高齢賀川滋子様宅への訪問を決定。冠山会クリーンアップ活動を終わる成果とまとめ。令和8年度の新規事業案(冠山会館及び周辺整備事業等)を協議。冠山会だよりのページ数の拡充に伴う構成を協議。冠山会ホームページの運用状況を協議。令和8年度「冠山会総会」及び「卒業50年学年同窓会」についての協議。「冠山会だより」への広告掲載依頼案についての協議。
- (6) 11月29日(土)第3回役員会 15:00～
冠山会会則の一部変更を承認。冠山会活動の新規母校支援事業を協議。学年同窓会申込み状況を共有。日本最高齢郡高卒、賀川滋子様宅訪問の報告、11/29付け奈良新聞に掲載済み。令和8年度新規事業「冠山会館及び周辺整備事業」の協議。次年度冠山会だよりの紙面拡充の具体案を

- 協議。冠山会ホームページの運用状況を説明。令和8年度冠山会総会及び卒業50年学年同窓会開催についての協議。「冠山会だより」への広告掲載依頼についての協議。
- (7) 令和8年2月21日(土)第4回本部役員会 13:00～
冠山会活動指針として、「ツートワン」を確認。新たに「冠山会館及びその周辺一帯整備事業」を行うことを協議。学校のトイレ洋式化に伴い、冠山会館の1、2階のトイレも洋式化。それに伴い、冠山会館の劣化箇所及び周辺の環境整備を行うことを協議。令和8年度「冠山会総会」及び「卒業50年学年同窓会」開催の詳細を協議。「冠山会だより」の拡張部分の具体的な内容を協議。冠山会ホームページの運用状況を協議。卒業50年招待準備委員の選定について協議。
- (8) 令和8年2月21日(土)第4回本部役員会 14:30～
活動指針である「ツートワン」の母校支援の一層の充実、学年親睦交流会のさらなる活性化を決定。新たな指針として「ツートワン」として、冠山会館及びその一帯整備を行うことを決定。その準備として、冠山会館前の庭に「枝垂れ梅5本」を植樹することを決定。令和8年度「冠山会総会」及び「卒業50年学年同窓会」開催の詳細について協議。一般会員の参加を呼びかけ、各年代が一層の交流を深められるよう努めていくことを決定。「冠山会だより」拡張20ページの具体案を決定。
- (9) 令和8年4月20日(月)第5回本部役員会 13:30～
令和7年度の冠山会活動の総括まとめについて協議。令和8年度「冠山会だより」拡張20ページの具体案を協議。令和8年度「冠山会総会」及び「卒業50年学年同窓会」の詳細についての協議。令和8年度新規事業「冠山会館及びその周辺一帯整備事業」の具体案を協議。令和9年度事業内容を協議。
- (10) 令和8年4月20日(月)第5回役員会 14:30～
活動指針である「ツートワン」の母校支援を強化することを決定。学年親睦交流会の一層の活性化を決定。新たな指針として「ツートワン」として、冠山会館及びその一帯整備を行っていくことを決定。前段階として、冠山会館前の庭に「枝垂れ梅5本」の植樹を決定。令和8年度「冠山会総会」及び「卒業50年学年同窓会」進捗の詳細について決定。一般会員の参加による各年代が一層の交流親睦を深められる機会を充実させていくことを決定。「冠山会だより」拡張20ページに伴い、「卒業生の今とここ」を各年代に執筆依頼を決定。「冠山会だより」への広告依頼を進め、次年度の冠山会だよりに広報することを決定。令和7年度事業を報告。令和7年度決算を報告。令和7年度決算の監査を報告。令和8年度事業計画についての協議。令和8年度の予算についての協議。令和8年度冠山会総会及び卒業50年同窓会の運営についての協議。冠山会だより発行準備等

2 冠山会だよりの発行

- 令和7年7月1日(火)第45号を発行し、全会員に発送。
※発行部数 32,000部

◆ 令和7年度 収支決算書

奈良県立郡山高等学校冠山会

自 令和7年4月1日～至 令和8年3月31日

収入の部 (単位:円)				
科 目	予算額	決算額	差 異	摘 要
前期繰越金	1,046,001	1,046,001	0	前年度からの繰越金
入 会 金	1,830,000	1,830,000	0	卒業生 5,000円×366人=1,830,000円
活動協力金	5,200,000	4,762,575	-437,425	
寄付 金	260,000	1,266,440	1,006,440	
雑 収 入	1,999	944,000	942,001	総会参加費等
合 計	8,338,000	9,849,016	1,511,016	

支出の部 (単位:円)				
科 目	予算額	決算額	差 異	摘 要
会 議 費	10,000	0	-10,000	
総 会 費	1,240,000	1,687,380	447,380	総会
卒50周年招待費	495,000	118,800	-376,200	広報費等
卒業記念品費	390,000	385,900	-4,100	卒業記念品費(卒業証書フォルダー)
生徒活動支援費	360,000	293,000	-67,000	全国大会等出場生徒への支援
教育事業支援金	100,000	100,000	0	短期海外留学参加支援
植木剪定等事業費	70,000	62,221	-7,779	植木剪定ボランティアに対する昼食代等
委 託 費	3,800,000	3,800,000	0	会報の編集・発送・業務委託、振込手数料等
事 務 費	276,000	323,218	47,218	事務用品、通信費、回線使用料等
報 酬	330,000	220,000	-110,000	事務補助職員報酬
慶 弔 費	110,000	50,000	-60,000	退職教職員への餞別等
諸 費 費	30,000	219,350	189,350	学年同窓会開催祝い等
維持費等積立金	350,000	450,000	100,000	冠山会館管理・周年記念準備積立金
予 備 費	127,000	129,780	2,780	スポットクーラー寄付・複合機購入・同窓生長寿祝金
母校教育支援費	300,000	547,140	247,140	ベンチ2台・しだれ梅・桜花グラウンドウオータークーラー
I T 関 連 費	350,000	349,800	-200	ホームページ制作・運営費
合 計	8,338,000	8,736,589	398,589	

収入決算額 9,849,016円
支出決算額 8,736,589円
差 引 残 額 1,112,427円 来年度への繰越金

◆ 特別会計収支報告(冠山会会報発行事業)

冠山会会報発行協力金収入 (単位:円)		会報発行・発送業務委託料支出 (単位:円)	
収入内訳	金 額	サラト委託費(会報発行経費)	金 額
郵便振込入金分	1,951,409		3,800,000
コンビニ振込入金分	3,351,192		
現金での入金分	3,000		
寄付入金後返金	▲5,000		
合 計	5,300,601		
		※1,500,601円は一般会計へ繰り入れます	

◆ 令和7年度 冠山会館維持積立金収支報告書 (単位:円)

科 目	収 入 の 部		支 出 の 部		収 支 の 部	摘 要
	前年度末累計	本年度積立金	利息	合 計	本年度支出金	次年度繰越金
積立金	4,230,769		6,924	4,237,693	0	4,237,693

◆ 令和7年度 事業積立金収支報告書 (単位:円)

科 目	収 入 の 部				支 出 の 部	収 支 の 部	摘 要
	前年度末累計	本年度積立金	利息	合 計	本年度支出金	次年度繰越金	
積立金	4,773,186	350,000	8,196	5,131,382	0	5,131,382	創立130周年記念事業実行委員会残余金と積立金

◆ 令和7年度 冠山会名簿作成に係る収益収支報告書 (単位:円)

科 目	収 入 の 部				支 出 の 部	収 支 の 部	摘 要
	前年度末累計	本年度積立金	利息	合 計	本年度支出金	次年度繰越金	
積立金	5,226,147		0	5,226,147	0	5,226,147	名簿発行収益

◆ 財 産 目 録 (単位:円)

科 目	金 額	摘 要
普 通 預 金	1,112,427	南都銀行 郡山支店 普通預金(運用口座)
定 期 預 金	4,237,693	南都銀行 郡山支店 定期預金(積立金口座)
普 通 預 金	5,131,382	南都銀行 郡山支店 普通預金(積立金口座)
普 通 預 金	5,226,147	南都銀行 郡山支店 普通預金(積立金口座)

令和8年3月31日現在

監 査 報 告

本日、上記の決算書について会計監査を執行しました結果、預金、帳簿、及び関係書類は符合し、正確に処理されていたことを認めます。

令和8年4月15日

会計監事 杉井 辰彦
会計監事 田村 好美

母校、郡高を愛し、さらなる発展を願う

□ 会員各位へ 冠山会会費納入のお願い

会費(冠山会活動協力金) 3,000円／年

～母校、郡高を思い、冠山会のさらなる発展を願って～

冠山会活動の目的は、母校生徒が学ぶ環境を支援すること及び年代を越えた会員相互の親睦交流を図ることです。冠山会は通年、母校への教育支援を行うことにより、郡高生が学ぶ環境の充実を図っています。

また、会員の皆様が卒業した今も母校を愛おしく思い、いつまでも誇りに思っていたくために、会員相互の親睦交流を図ることを目的とし、毎年の冠山会だよりの発行や学年同窓会開催への支援を行っています。

さらに、昨年、新たに「冠山会ホームページ」を立ち上げ、タイムリーな情報発信や住所等変更手続き、各種行事への参加申込みが簡単にできるよう対応しています。

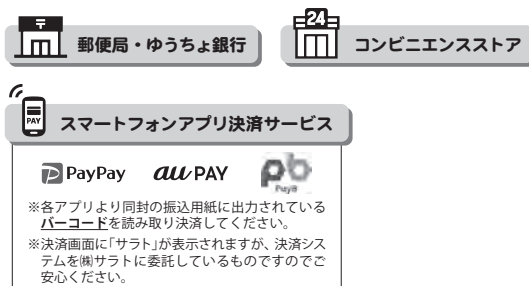
加えて、卒業生の心の拠り所である「冠山会館」及びその周辺の整備も急がれるとのこと。こうした活動は、すべて冠山会会員の皆様の「冠山会費(冠山会活動協力金)」に依るものであります。

会員の皆様におかれましては、冠山会会費(冠山活動協力金)

のご納入をお願いいたします。

ご協力いただいた会員様には、毎年発行の「冠山会だより」の芳名簿に卒業年度別にお名前を掲載しています。

毎年発行の「冠山会だより」に個別に振込用紙が封入されています。スマホ決済(個別のバーコードをスマホで読み取るだけ)やコンビニ、郵便局でも簡単に納入していただけます。



□ 冠山会館及びその周辺整備への協力のお願い

「寄付金専用口座」

南都銀行 郡山支店 口座番号 2453459

(ナラケンリツコオリヤマコウトウガッコウカンザンカイダイヒョウオウダヒデノリ)

冠山会館の1・2階トイレの洋式化に伴い、冠山会館の整備(空調・カーテンや網戸の付け替えや各所修理等)や冠山会館周辺の植樹(梅、桜の樹木)により、私たち卒業生の心の拠り所である冠山会館が、永遠に美しい会館であり続けてほしいと願うものです。

現在、冠山会館1階は生徒たちが毎日使用する昼食場所となっていたり、部活動や授業でも活用されています。しかしながら、歳月が経ち、各箇所の修理や整備が必要となっているのが現状です。

このたび、新たに「冠山会への寄付専用の口座」を開設いたしました。会員様からのご寄付により、魅力ある母校の環境を整備してまいります。

是非、上記の口座へご寄付をお願いいたします。

ご寄付いただきました方のお名前、卒業年度、金額は、次年度の「冠山会だより」に掲載いたします。

ご寄付は、いくらからでもお振り込みいただけます。

どうぞ、よろしくお願いいたします。

冠山会事務局

——— 下記の皆様より、冠山会会費(活動協力金)を上回るご協力をいただきました。誠にありがとうございました。 ———

郡山高等学校					昭和37年					昭和44年					昭和54年								
昭和20年	片岡弘	7,000	昭和37年	長田紀元	7,000	昭和44年	山上雄平	2,000	昭和54年	中村妙子	3,000	昭和20年	川原禮子	2,000	昭和37年	長田紀元	7,000	昭和44年	吉田修一	7,000	昭和54年	中市村臣	2,000
昭和20年	横谷輝梧	7,000	昭和37年	山野三郎	3,000	昭和44年	金田茂	5,000	昭和54年	奥口博夫	2,000	昭和20年	村田寛	3,000	昭和37年	山野三郎	3,000	昭和44年	堀内治兵衛	2,000	昭和54年	和井俊幸	17,000
昭和23年	日下一郎	2,000	昭和38年	石橋和子	2,000	昭和46年	堀内真司	2,000	昭和56年	河田真一	2,000	昭和23年	森田智夫	2,000	昭和38年	小島静子	2,000	昭和47年	市井真司	2,000	昭和56年	和田真一	2,000
昭和24年	村田寛	3,000	昭和38年	嶋田智夫	2,000	昭和47年	徳矢和士郎	7,000	昭和56年	木原潤	3,000	昭和24年	平井ひろみ	6,000	昭和38年	嶋田智夫	2,000	昭和47年	徳矢和士郎	7,000	昭和56年	木原潤	3,000
昭和27年	中西淳之	2,000	昭和39年	森田正一	2,000	昭和49年	上杉憲史	7,000	昭和61年	工藤華代	2,000	昭和27年	山崎光子	17,000	昭和39年	森田正一	2,000	昭和49年	上杉憲史	7,000	昭和61年	工藤華代	2,000
昭和29年	森脇みさを	17,000	昭和39年	藤村節則	7,000	昭和49年	岡崎典子	97,000	昭和62年	中牟田剛	7,000	昭和29年	清水幹夫	10,000	昭和39年	藤村節則	7,000	昭和49年	岡崎典子	97,000	昭和62年	中牟田剛	7,000
昭和31年	清谷保子	2,000	昭和40年	岡田進	7,000	昭和50年	吉木村憲行	2,000	昭和62年	上野山嘉之	2,000	昭和31年	島田淑子	3,000	昭和40年	岡田進	7,000	昭和50年	吉木村憲行	2,000	昭和62年	上野山嘉之	2,000
昭和31年	中谷保子	2,000	昭和40年	田中芳雄	7,000	昭和50年	井本章子	2,000	昭和62年	野中智弘	3,000	昭和31年	鈴木保保	7,000	昭和40年	田中芳雄	7,000	昭和50年	井本章子	2,000	昭和62年	野中智弘	3,000
昭和32年	島田淑子	3,000	昭和40年	西浦貞参	7,000	昭和50年	日野悦子	7,000	平成元年	林高穂	2,000	昭和32年	粕本源成	2,000	昭和40年	西浦貞参	7,000	昭和50年	日野悦子	7,000	平成元年	林高穂	2,000
昭和32年	粕本源成	2,000	昭和41年	乾忠明	3,000	昭和51年	今谷政昭	3,000	平成元年	江口洋祐	10,000	昭和32年	明石あき江	30,000	昭和41年	乾忠明	3,000	昭和51年	今谷政昭	3,000	平成元年	江口洋祐	10,000
昭和32年	明石あき江	30,000	昭和41年	昆布明寿	2,000	昭和51年	西尾典子	3,000	平成2年	山本知美	7,000	昭和32年	足立郁夫	7,000	昭和42年	昆布明寿	2,000	昭和51年	西尾典子	3,000	平成2年	山本知美	7,000
昭和33年	水口郁夫	7,000	昭和42年	庵戸信仁	3,000	昭和51年	水本裕丈	7,000	平成3年	伊村耕一	2,026	昭和33年	奥田忠司	3,000	昭和42年	庵戸信仁	3,000	昭和51年	水本裕丈	7,000	平成3年	伊村耕一	2,026
昭和33年	奥田忠司	3,000	昭和42年	奥田ふみ子	2,000	昭和51年	宮坂博	2,000	平成7年	中塚宣子	2,000	昭和33年	森島實	3,000	昭和42年	奥田ふみ子	2,000	昭和51年	宮坂博	2,000	平成7年	中塚宣子	2,000
昭和34年	足立郁夫	7,000	昭和43年	津田和俊	7,000	昭和52年	駒井宏充	7,000	平成7年	福西広理	7,000	昭和34年	植田麻由美	2,000	昭和43年	津田和俊	7,000	昭和52年	駒井宏充	7,000	平成7年	福西広理	7,000
昭和34年	植田麻由美	2,000	昭和43年	大向實	2,000	昭和52年	杉本幸弘	3,000	平成15年	上野貴之	1,000	昭和34年	乾澄子	2,000	昭和43年	大向實	2,000	昭和52年	杉本幸弘	3,000	平成15年	上野貴之	1,000
昭和35年	中潔	7,000	昭和43年	森北好則	2,000	昭和52年	廣谷知彦	3,000	平成24年	谷川友彰	3,000	昭和35年	坂本憲一	7,000	昭和43年	森北好則	2,000	昭和53年	上林大祐	2,000	城内高等学校		
昭和36年	坂本憲一	7,000	昭和43年	佐々木義章	2,000	昭和53年	上林大祐	2,000	昭和49年	伊藤昌輝	3,000	昭和36年	乾澄子	2,000	昭和43年	佐々木義章	2,000	昭和53年	上林大祐	2,000	昭和49年		
昭和36年	乾澄子	2,000	昭和43年	松永修	2,000	昭和53年	谷川久	3,000				昭和36年	中潔	7,000	昭和43年	松永修	2,000	昭和53年	谷川久	3,000			
昭和36年	中潔	7,000	昭和44年	木西正安	2,000	昭和53年	西川利男	3,000				昭和36年	奥田忠	3,000	昭和44年	木西正安	2,000	昭和53年	西川利男	3,000			
昭和36年	奥田忠	3,000	昭和44年	村上貴夫	10,000	昭和54年	佐伯千尋	7,000				昭和36年	森島實	3,000	昭和44年	村上貴夫	10,000	昭和54年	佐伯千尋	7,000			
昭和36年	森島實	3,000	昭和44年	上田貴夫	10,000	昭和54年	山崎稔	2,000				昭和36年	植田麻由美	2,000	昭和44年	上田貴夫	10,000	昭和54年	山崎稔	2,000			

令和8年度 事業計画

1 本部役員会及び役員会の開催

6月20日(土) 第1回 本部役員会並びに役員会
9月29日(火) 第2回 本部役員会並びに役員会
11月28日(土) 第3回 本部役員会並びに役員会
令和9年 2月20日(土) 第4回 本部役員会並びに役員会
4月20日(火) 第5回 本部役員会並びに役員会

2 令和8年度冠山会総会

日時 5月10日(日) 午前11時開会
会場 ホテル日航奈良

3 冠山会だより(会報)の発行

7月1日「冠山会だより第46号」を発行し、全会員へ発送

4 学年同窓会への開催支援(通年)

各年代が開催する学年同窓会に対して、開催奨励金として、一開催に5万円を支援

5 母校への教育支援(通年)

母校の生徒の学びを支援するため、学校関係者等との情報交換を通して、必要な支援を強化する。

6 学校との情報交換会

9月下旬、本部役員と学校関係者との情報交流を開催

7 冠山会クリーンアップ活動

日時 令和8年11月28日(土) 午前8時30分～
場所 冠山会館～南門周辺及び中庭
申込み方法 冠山会ホームページからの申込み

8 冠山会入会式並びに卒業式予定

令和9年2月28日(日) 卒業記念品贈呈式並びに冠山会入会式
令和9年3月1日(月) 卒業証書授与式
卒業後50年記念式典へ会長並びに本部役員が出席。

9 令和9年度入学式への出席

※上記8及び9は、学校行事との調整が必要なため、日程は現在未定。

◆ 令和8年度 冠山会予算書

奈良県立郡山高等学校冠山会
自 令和8年4月1日～至 令和9年3月31日

収入予算額 9,257,000円
支出予算額 9,257,000円
差引過不足額 0円

収入の部

(単位：円)

科 目	本年度予算額	前年度決算額	比較増減額	摘 要
前期繰越金	1,112,427	1,046,001	66,426	前年度からの繰越金
入 会 金	1,860,000	1,830,000	30,000	卒業生 5,000円×372人=1,860,000円
活動協力金	4,800,000	4,762,575	37,425	会報発行協力金
寄 付 金	540,000	1,266,440	-726,440	
雑 収 入	944,573	944,000	573	総会参加費等
合 計	9,257,000	9,849,016	-592,016	

支出の部

(単位：円)

科 目	本年度予算額	前年度決算額	比較増減額	摘 要
会 議 費	10,000	0	10,000	役員会等開催経費
総 会 費	1,900,000	1,687,380	212,620	総会、懇親会開催経費、講師謝礼等
卒50周年招待費	120,000	118,800	1,200	卒50周年(昭和52年度卒)招待経費
卒業記念品費	390,000	385,900	4,100	卒業記念品贈呈費用
生徒活動支援費	300,000	293,000	7,000	全国大会等出場生徒への祝金、支援金
教育事業支援金	100,000	100,000	0	リーダー育成海外研修事業への支援
植木剪定等事業費	69,000	62,221	6,779	クリーンアップ活動運営費等
委 託 費	3,800,000	3,800,000	0	会報発行委託料
事 務 費	388,000	323,218	64,782	事務用品、文書印刷費、通信費等
報 酬	0	220,000	-220,000	
慶 弔 費	100,000	50,000	50,000	教職員への祝金、香料等
諸 費	30,000	219,350	-189,350	式典に係る経費
維持費等積立金	250,000	450,000	-200,000	冠山会館維持、周年記念準備積立金、事業積立
予 備 費	200,000	129,780	70,220	
母校教育支援費	750,000	547,140	202,860	
I T 関連費	200,000	349,800	-149,800	ホームページ運営費
学年同窓会支援費	350,000	0	350,000	(新設)
冠山会館整備費	300,000	0	300,000	(新設)
合 計	9,257,000	8,736,589	520,411	

令和7年度 冠山会寄付金

寄付者	寄付金額(円)	寄付者	寄付金額(円)
奥田 秀紀	10,000	天理市役所冠山会	306,028
昭和51年卒業生	140,000	永原 君代	10,000
福井 正子	10,000	柳生 真孝	5,000
松山 茂樹	3,000	秋田 真良	30,000
池田 彰	10,000	清水 誠	20,000
坪井 秀樹	10,000	家郷 善光	30,000
匿名希望(2名)	6,000	中谷(高西)綾子	5,000
沖野 洋平	10,000	昭和33年卒業生	20,000
中嶋 峰男	3,000	川合 皓	50,000
島田 智夫	10,000	廣岡 雅章	10,000
松浦 靖彦	5,000	徳 芳郎	5,000
松本 隆善	10,000	大西 弘章	5,000
竹村 秀一	5,000		
山中 弘行	5,000	合 計	733,028

右記の皆様よりご寄付をいただきました。ありがとうございます。

物故者並びにご家族の皆様へ

令和7年度に物故者になられた60名あまりの会員の皆様のご冥福を心よりお祈り申し上げます。ご生前のご厚情に深く感謝するとともに、ご家族の母校へのお心遣いにお礼申し上げます。

冠山会役員一同

KANZANKAI NEWS



冠山会のホームページができました

<https://kanzankai.com>

冠山会の活動やそれに伴う母校の様子、住所変更等の手続きや寄付金のご協力などこちらから受け付けております

冠山会会員の皆様へお願い

住所変更等の異動、会報への寄稿や写真提供がありましたら

冠山会HPよりお知らせください。

※電話での対応はできかねますので、予めご承知ください。



編集後記

会員の皆様には日頃より冠山会活動にご協力をいただき心よりお礼申し上げます。
今回の「冠山会だより」では皆様のご近況や母校の話題をお届けいたしました。
誌面を通じて、学生時代の思い出や旧友との絆を感じていただけたら幸いです。
先日開催されました総会、懇親会にも世代を超えた多数のご出席をいただき、旧交を温めておられました。これからも本会が皆様をつなぐ温かな場となりますように願っております。
今後ともよろしくお願いたします。

(副会長 阪本裕紀子)